

本日、平成30年第3回長柄町議会定例会の開会にあたり、これから4年間にわたる2期目の町政運営に対する所信の一端を申し述べる機会を頂き、誠にありがとうございます。

私は、このたび議員の皆様をはじめ、多くの町民の皆様から、温かいご支援とご厚情を頂きまして、再び町長に就任させていただきました。

この上ない光栄でありますとともに、ここに深く感謝申し上げます。

このたびの選挙をとおして、謙虚に過去4年間を総括しながらも、初心に帰り、長柄町7千町民のために、決意も新たに全力で取り組む覚悟でございます。

私は、私たちの大好きな「ふるさと長柄」を、もっと元気にしたい、良くしたいという切なる思いを胸に、1期4年間、町民の皆様の声を、この耳で聴き、地域の絆を全身で感じて、地方自治の一端を担って参りました。

そして、先輩方が築いて来られた「ふるさと長柄」を新たな流れをもって、さらに発展させるべく、このたびの選挙においては、「継続は力」のスローガンのもと、現在の長柄町第4次総合計画、まちづく

りの基本目標に沿って、今後4年間の「目標」を掲げたところでございます。

これよりその一端を申し述べさせていただきます。

はじめに、「基本姿勢」について申し上げます。

ご承知のとおり、日本の人口は、2008年のピークから一転、減少の時代を迎え、今まさに「人口減少社会」の真っ只中にあり、しかも、その減少幅は年々拡大しています。

長柄町におきましては、「国立社会保障・人口問題研究所」によれば、2060年（平成72年）の人口は、「3,276人」という驚くべき推計値が示されております。

この人口推計値をとにかく改善しなくてはの思いから策定したものが「まち・ひと・しごと創生総合戦略」であり、「長柄町版大学連携型生涯活躍のまち構想」であります。

「生涯活躍のまち構想」は、千葉大学、リソルホールディングス株式会社との、産・学・官の包括連携により、それぞれの強みや特性を掛け合わせ、健康寿命の延伸や、本町への人の流れを促し、加えて、産業振興や、雇用創出、地域活動への参加の促進、地域医療連携による、安心の医療・介護体制、本町の主産業である、農業を通じた“い

きがい”を創出・提供するなど、町の諸課題の大部分に連動する、まさしく地方創生、地域再生事業となるものと確信しております。

そして、この生涯活躍のまち事業を包含した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を、今後着実に、一つひとつ実現して参ります。

それでは、この基本姿勢を具現化するために、私の4年の任期の中で取り組む主な施策について、総合計画の6本の柱に沿って申し上げます。

はじめに、「自然とともに生きる快適なまちづくり（基盤の整備）」ですが、町民の皆様の、生活環境に最も密着した「社会基盤」である道路の整備につきましては、引き続き、（仮称）茂原長柄スマートインターチェンジアクセス道路整備事業、及びスマートインターチェンジ周辺道路整備事業等、圏央道とアクセスする、関係道路の整備を実施して参ります。

また、スマートインターチェンジの整備・開設を受けて、観光や企業立地など、飛躍的な時間短縮から生まれる様々な期待に対し、その受け皿となる道路体系を確立するため、日吉誉田停車場線をはじめとした周辺の県道の整備について、関係機関に強く働きかけて参ります。

地籍調査事業は、国の予算配分の関係から、現在、若干の遅れが生じております。1年でも早く念願の全町完了となるよう、今後も、事業費確保について、国・県に対して、積極的に働きかけてまいります。

もう一点、本町唯一の公共交通であるバス交通について、町民の交通手段を維持確保すること、また、兼ねて「出かけやすさ」の視点から、外出支援策として、学生及び65歳以上の方の定期または回数券の半額助成を本年度から始めました。

昨年秋に事業化しました高齢者等外出支援タクシー助成事業と併せまして、買い物・通院など、町民の利便性の向上を目的としたものであります。

「公共交通を守る」という部分と、町民の「足、利用しやすさ、住みやすさ」の双方の視点から、対象枠の拡大など、本事業を検証しつつ推進して参りたいと考えます。

次に、「人が健康で支えあうまちづくり(保健・福祉の充実)」では、まず、健康づくりの取組みに応じた、ポイントを付与する「健康ポイント事業」に関しましては、昨年秋に試行導入し、今年度、参加者の拡大を目指しており、町民の健康管理に係る動機付け、また自発的な取組みを促進するものであります。

広く町民の健康づくりに寄与できるよう、一層の周知、啓発に取り組んで参ります。なお、この事業は「生涯活躍のまち」の連携・協力事業体である千葉大学にも係わっていただいております。

特に、千葉大学予防医学センターにおきましては、参加者のデータの学術的な効果検証までを、継続して行うなど、活動と実証により、その成果を町に再び還元するといった波及効果が期待されます。

従いまして、まず続けること、そしてできる限り多くの町民に参加していただくこと、できることならばすべての町民が参加すること、に力を入れて参ります。

さらに、介護予防事業では、住み慣れた地域で、自立した生活が継続できるように、介護予防出張教室をはじめとする各種サロン活動などの取組みについて、社会福祉協議会との協働体制の下、今後も積極的に推進し、地域包括支援体制の一層の充実を図って参ります。

次に、「人が生き生きと輝くまちづくり（教育・文化の充実）」では、まず学校教育では、確かな学力、豊かな心、健やかな体、この3つの生きる力をバランスよく育成することを基本と考えます。

とりわけ、事業として復活させた「中学生国際交流事業」を今後も推進して参ります。

子どもたちが、異文化に対する理解と認識を深め、外国の人々と交流を行うことにより、言語や生活・習慣等の相違を超えた、心と心のふれあいをもたらし、国際社会に貢献する豊かな人間形成を行います。

また、日ごろから、外国人と直接、コミュニケーションすることを通じて、言語はもとより、文化などについても 体験的に理解を深め、自らとの違いに気づき、慣れ親しむ環境をつくることから、外国語指導助手（ALT）の増員を図って参ります。

また、本年度から開始した「英語や漢字の検定料の補助」を継続し、子どもたちの学ぶ気持ちや、達成感をけん引する一助とします。

公民館の建設につきましては、現在の建物の老朽化の問題から、「できるだけ早く新たな施設建設を」との方向に変更はございません。町議会とよく相談をしながら、しっかりと進めて参りたいと存じます。よろしく願いいたします。

さらに、町民が生涯にわたって、学習活動へ参加する仕組みや、環境の整備に努めて参ります。

充実した人生をおくるために、楽しく学ぶこと、また、学びつづけることが、生涯学習と考えます。

私たちは、生涯学びつづけることが大切なことであり、「できたら  
そうしたい」と願っているものの、なかなか行動に結びつかないとい  
うのが実情で、その環境の改善といった視点からも、新公民館の役割  
は、大変大きいと思っております。

高齢者の皆様には、生涯学習活動に参加することによって、地域に  
積極的に出てきていただき、人と関わりを持つことにより、様々な病  
気のリスクからの、予防効果が生まれると期待します。

今後、千葉大学予防医学センターと協力し、生涯学習活動への参加  
が、認知症や転倒の予防に有効であることを、産・官・学連携で実証  
し、その成果を発信することで、町民の参加を促す形となるなど、「生  
涯活躍のまち事業」との連動を図って参ります。

次に「人がうるおう美しく安全なまちづくり（生活環境の整備）」  
では、まず、防災関係では、災害時の情報収集、及び伝達手段の確保  
を図ることなどから、「町民いこいの家」に無線LANを設置するほ  
か、指定避難所の環境整備を推進します。

一昨年から地方創生関連で取組みを始めました、いわゆる「移住定  
住推進事業」は、空き家バンク制度の更なる充実や、一定期間、本町  
に移り住む「お試し居住」、また、都市部でのプロモーション活動や、

情報発信など、県内外のイベントなどにも積極的に参加し、長柄町の魅力を広く多くの方に発信して参ります。

さらに、内閣府の「地方創生人材支援制度」を活用し、4月から非常勤特別職で勤務いただいている「タウンアドバイザー」を継続し、「生涯活躍のまち」に係るマネジメントやアドバイスをお願いするとともに、国、県、千葉大学及び民間事業者等の「外」と、役場の「中」をつなぐコーディネーターとして、今後も期待するものであります。

次に、「人と自然が創る豊かなまちづくり（産業の振興）」では、本町の魅力の一つである「美しい田園風景」と「里山の景観」を子や孫に引き継ぐため、まず、鳥獣被害防止対策事業ですが、いわゆる有害獣の被害に対しましては、捕獲・防護の両面において、国・県の補助制度を活用する中、町の単独補助事業も上乘せし、一層の被害防止対策に努めて参ります。

次に、耕作放棄地について、後継者不足の問題や営農条件の悪さなど、様々な要因によって、耕作放棄地が年々増加の傾向にあり、これまでも農業委員会と連携して新規就農者につなぐなど、既に取り組んでいるものの、なかなか現実は厳しいものと承知しています。



今後、担い手についての情報量が多く、また知見のある千葉県農業者支援センターや、JA長生と連携していくなど、模索しながら問題解決に努めて参ります。

また、関連して、耕作放棄地、離農、担い手不足、高齢化など、本町の農業を取り巻く諸問題に対し、現在の営農組合方式だけでは、解決の方向性が見えてこないと私は感じています。

営農組合が受託している農地は、比較的広範囲で町内に散在しているといった状況で、それゆえに、多くの町内の農地が保全されているわけで、組合の意義は極めて深く、敬意を表するものでございます。

しかしながら一方で、営農組合の働き手の高齢化や、慢性的な人手不足は常態化しつつあり、閉塞感が否めないのも事実ではないかと考えます。そこで、集落営農組合、又は集落営農方式の導入、推奨となります。

集落を単位とした営農組織、いわゆる集落営農の歴史は長く、いまさら先駆的事業のようなことを申すつもりはございません。

農地集積はもとより、農業機械や施設の共同利用、また共同作業など、この方式の合理性など、メリットはいうまでもなく、全国的にも

すでに主流の営農方式といえます。しかしながら、本町においては、なかなかできなかつたことも理解しています。

自治会単位、大字単位など、その規模は様々あろうかと思いますが、要は「地域のことは地域で」この合言葉のもと、元気のある農家、定年間もない方、地域の若者、そして女性・高齢者の役割分担を明確にして、意欲を高める農業形態、集落営農方式を是非、本町内でいくつか立ち上げ、その先行事例を検証しつつ、将来は町内全域に拡大していくよう努めて参ります。

次に、「町民が主役となる開かれたまちづくり（地域・行財政の充実）」では、町民に求められるものは、まず、第一に信頼される公正で効率的な行政の実現です。

限られた経営資源を、効率的で効果的に活用する行財政改革を進め、町民満足度の向上を図って参ります。

一昨年には、役場組織体制を、平成20年度からの大課制から課制に変更いたしました。今後も、町民によりわかりやすい組織となるよう、また、行政サービスの向上につながるよう、検証しながら、一層の取り組みを行って参ります。

財政面については、安定した財政基盤の確立に努めて参ります。

その他、何点か申し上げます。

児童公園の建設、また、小中一貫型校の検討を開始することも、今回、目標とさせていただきました。

児童公園は、本町に住むすべての人が「住んで良かった」「住み続けたい」と思える町に進化していくうえで、人びとが集まり、語り合える「ふれあいの場」となることのほか、何より本町が、より一層子育てのしやすい町として進んでいくうえで、子どもたちの「遊び場づくり」はもちろんのこと、親世代、祖父母世代の「コミュニティの形成の場」となることも、大いに期待できます。

場所は、現在のこども園の南側、旧昭栄中学校の跡地を候補地とし、こども園と一体的な利用を可能としたいと考えております。

もう1点、子どもの数の減少に伴って、本町の小学校を再び統合し、一つにしなくてはならないという、この問題は避けては通れないものと理解しています。

また、その議論の中で、近年増加している「小中一貫校」または「小中一貫型校」、いわゆる「義務教育学校」についての議論、検討も必要と考えます。

いずれにいたしましても、「郷土長柄の将来を担う子どもたちの為

に」、本町の児童生徒の教育環境、育ちの環境の充実を第一とし、教育委員会のご意見を伺い、そして議論を深めながら検討して参ります。

最後に「東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会」に向けた国際交流の推進です。

「魅力あるまちは、文化・音楽・スポーツの力で生まれる」といわれます。幸いにも、本町にはリソル生命の森という、素晴らしいキャンプ候補地があります。

「長柄町の子どもたちに夢を」との思いから、2020 を契機にした町のスポーツ振興、また海外選手と一体となったお祭りや、イベントの開催をとおしての、新しい価値の創出など、二度とないこの機会をとらえ、一昨年より、リソルとの強い協力関係の下、積極的に関係国等に対し働きかけをして参りました。

この8月には、世界女子ソフトボール選手権大会の出場国、南アフリカ共和国が来町され、短い滞在時間ではありましたが、長柄中学校の生徒などと交流を図ることができました。

今後も日本開催の国際大会出場国のキャンプ等、誘致に向け、千葉県・関係市、及びリソルとともに、積極的に取り組んで参ります。

むすびにあたり、本町は、千葉県の「ど真ん中」に位置しています。

首都圏の環状道路である、首都圏中央連絡自動車道は、外側の都市と都市をつなぐことはもとより、東京都心と近隣県、また、全国を結んでおり、数年後には全線がつながります。

そして、本町の新しい玄関口にもなるであろうインターチェンジも、1年半後に開設されようとしています。

町と、町を取り巻く周辺環境がガラリと変わる4年間と心得ております。

そのような意味からも、あらためて「気を引き締めなおし」決意を新たに、まちづくりに邁進して参ります。

そして、町民の皆さまに、長柄町に住んでよかった、いつまでも住みつづけたいと思っていただける「まち」となるよう、町民や議会の皆さまと手を携え、夢を語り合いながら、また、知恵を出し合いながら、全力を傾注して参る所存でございます。

どうか、町民の皆様をはじめ、議員各位のご理解とご指導、ご鞭撻、また、従前に増してのご支援とご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます、私の所信表明とさせていただきます。